

若者転出を止め、定住へ

西大寺駅の産官学連携拠点充実を

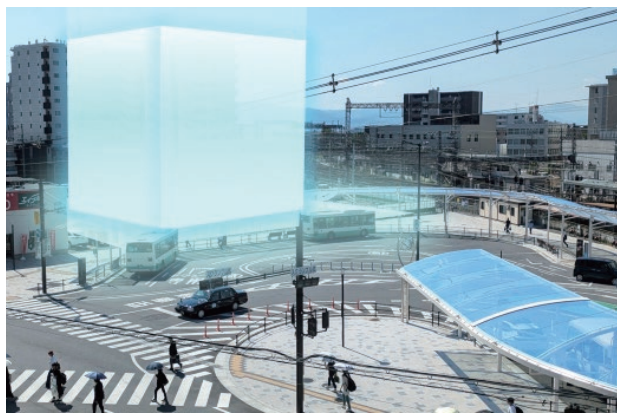
奈良市の人口は全体として転出より転入が多い「転入超過」になっていますが、大学卒業の22歳からは「転出超過」になっており、大学卒業後も奈良で働き、奈良に住み続けてもらう課題が浮き彫りになっています。

市は学生や地域、企業が交流する「産官学連携拠点」を近鉄大和西大寺駅北側の市有地Ⅱ写真Ⅱに、民間活力で設置していきたい考えです。この事業の内容や、計画している市有地が駅から徒歩圏内という好立地をどのように活用していくか、市の考えをたどりました。

を誘致して、その企業が建設する拠点施設内に産官学連携拠点を設置することを考えていると答弁。

活躍できるような拠点づくりに努めてほしいと求めました。

事業を行うために市が民間事業者へ行ったヒアリングでは「西大寺駅は県内最大の交通結節点」「オフィスビルや金融機関が多い」など、企業誘致用地としてのポテンシャルは高い評価を得ており、興味を示す企業は一定数あるのではないかとこの意見をいただいていると見解を示しました。



消防力の低下を危惧、さらなる充実求める

市は消防局に3隊ある「専任救助隊」を2隊へと減隊しました。この理由を問うとともに、消防力の低下にならないか、市の考えをたどりました。

減隊した理由について市は「奈良市と人口規模が同等かつ救助件数も同数である中核市のほと

んどが2隊で対応しているため、業務効率化や生産性の向上を図るために改編した」と説明。

懸念される消防力の低下については、市街地では10分以内、東消防署管内では20分以内の現場到着時間に変わりないと説明がありました。

高まる救急要請への対応を

近年は高齢化や疾病構造の変化、突発的な災害や事故などで救急搬送件数が増加傾向にあります。高まる需要について、消防局の対応を問いました。

市は令和4年度に南消防、今年度に西消防署で日勤救急隊の運用を開始し、マイナ救急による病院交渉時間の短縮など、高まる救急要請への迅速な対応に努めていると答弁しました。

また救急車の適正利用を促す啓発活動や救急車要請前に奈良県救急安心センター「#7119」への相談を呼び掛けている=写真=と説

明。さらに救急業務DX化の一環として総務省消防庁主体のマイナ救急実証事業にも参画していると説明しました。

私は市民の不安を招かないよう迅速な対応と、救急業務の高度化に伴う最新の救命処置用機材の充実に努めるように求めました。



新大宮駅周辺の活性化

飲食業の声や現状把握要望

外資系ホテルの開業や、南都銀行本店が移転した新大宮駅周辺Ⅱ写真Ⅱですが、その一方でコロナ禍以降、駅周辺の繁華街は飲食店が多く閉店し、賑わいが失われつつあります。また奈良へ宿泊されても、夜の経済が循環しないことも懸念されます。

市が現状をどのように分析しているか、今後の対策について質問しました。

あると認識していると市は説明。これまで奈良市公式アプリ「SH I K A n o A S H I A T O」では、夜に飲食可能な店舗の情報発信しました。

ルートアリーナ奈良、建設整備後50年経過

思い切った更新も必要

新大宮駅周辺は、営業時間を短縮している店舗、また入居募集の掲示、更地になっているところがある

奈良市のスポーツ拠点のルートアリーナ奈良Ⅱ写真Ⅱは、建設整備後50年が経過しており、さまざま

まな改修が必要になっています。今後の改修方針を質問しました。また近年猛暑日が増加する中で、



市の体育施設へのエアコン設置を要望しました。

スタジアムについては市は令和6年度、スコアボードを電光式に変更する工事やトイレの改修工事、観客席のリニューアルの設計に取り組んでおり、令和7年度以降に

改修を行っていくと説明。アリーナについては、照明のLED化、老朽化した階段や外壁の修理、トイレ、シャワールームの改修を予定していると計画を明らかにしました。

エアコンについては、現在、ルートアリーナ奈良、ルート奈良武道場、西部生涯スポーツセンター体育館のみが設置されている状況で、市は令和7年度、ルート第二アリーナ奈良、ルート奈良第二武道場にエアコンを設置し、夏からの使用ができるようになるかと答弁しました。

私は7年後には「国スポ」が開催されることを見据え、老朽化した施設を思い切った更新も必要と提案し、市のスポーツ振興に努めるよう求めました。